

日本産樹木新報知 (4)

林 彌 栄⁽¹⁾

31. トビダシウラジロモミ (新称)

常緑針葉高木，樹皮，枝条，葉の形態などは基本種のウラジロモミと大した相違はない。球果は円筒形で長さ 10~12 cm，径 3~5 cm である。苞鱗は倒卵状楔形を呈し，先端は微凸形をなし，辺縁に微細なる鋸歯があり長さ 1.0~2.0 cm (種鱗の柄の基部よりの長さ)，種鱗は小半月形，上辺の左右端は耳朶様をなし不整の歯牙があり，長さ 1.2~1.8 cm，幅 2.5~2.9 cm ばかり。苞鱗の長さは種鱗より長く合せ目より外に抽出する。種子は倒卵状楔形，長さ 6~7 mm，翅は扇状広楔形，長さ 8~12 mm あり種子よりはるかに長い。

産地 山梨県下富士山

採集者 小島俊郎

基本種ウラジロモミの苞鱗は普通種鱗の半長しかないが，本品種は苞鱗長く種鱗の合せ目より外にかなり抽出していることが，おもな相違点である。山梨県林業試験場技師小島俊郎氏が，1959 年秋富士山で発見採集し，筆者に標本を届けられたものである。

32. ヒメマツハダ

常緑の針葉高木で樹高 20~30 m，胸高直径 40~80 cm となる。樹皮は暗灰色で薄く鱗片状に剝離する。小枝は赤褐色を呈し褐色の腺毛を生ずる。いちじるしく樹脂に富み傷つけるとモミのように樹脂を分泌する。葉枕はいちじるしく高い。冬芽は褐色で円錐形をなし先端とがり，基部膨大する。葉は剛強で長さ 13~18 mm ばかり，特に球果をつける葉は剛強で彎曲し白粉を被ることが多い。稚樹の輪状葉には鋸歯がある。葉の横断面において内皮細胞の数は 23~25 個ある。球果は円筒形で先端細くなり鈍にとがり長さ 8~12 cm，幅 2.4~4 cm あり，はじめ緑褐色で成熟時は褐色となり光沢がある。種鱗は馬蹄形，先端はやや丸く微細な鋸歯がある。苞鱗は狭菱形である。種子は長さ 3~3.5 mm，幅 2~2.5 mm，翅の長さ 8~9 mm あり，5~6 月開花し 10 月成熟する。

従来一般にヒメマツハダはイラモミの変種として認められていたが，わたくしは数回にわたり Type-locality である長野県下八ヶ岳西岳のヒメマツハダや，南アルプスのミコブチ，仙丈ヶ岳などに産するヒメマツハダを調査し，かつ多数の標本を採集してきて，イラモミとの相違を精細に検討した結果上記のような明白な相違点があるので，イラモミの変種ではなく別種であるという考えに到達したので学名をかえ変種から種にひき上げた(拙著日本産針葉樹の分類と分布(1960)，p. 55 で発表済み)。acicularis の名は前に同属の別種の種名として発表されているので使われず，新しい種名を与えた。

採集者 林 彌栄

(1) 浅川実験林主任・樹木研究室長・理学博士

33. オゼトウヒ (新称)

わたくしは本土産のトウヒと北海道以北産のエゾマツと尾瀬周辺産のトウヒの3者の相違点を实地調査と多数の標本とにより比較検討してみた結果、オゼトウヒは尾瀬周辺にのみ産し、種々の形質はエゾマツに似ず、全くトウヒと同じであるが、ただ樹皮が灰褐色を呈し厚く不規則な鱗片状をなし深い裂目を生ずることのみがエゾマツとほぼ同様であることを確かめたので、トウヒの1品種として上記の和名と学名を与えた(拙著日本産針葉樹の分類と分布(1960), p. 55 で発表済み)。

採集者 林 彌栄

34. アズサバラモミ

常緑の針葉高木、樹高 15~20 m、胸高直径 20~40 cm となる。樹皮は灰褐色で厚く鱗片状にはげる。樹冠は円錐形をなす。冬芽は円錐形、赤褐色で樹脂が多い。1年生枝は黄味を帯びた褐色で無毛である。葉枕は低い。葉は線形で基本種ヒメバラモミより長く 12~18 mm ばかりで、球果をもつ枝では彎曲し上部にそる。横断面は菱状四角形をなして四面に気孔帯がある。球果は長楕円状円筒形でヒメバラモミより大きく長さ 7~9 cm、幅 2.2~3.2 cm あり黄緑色、のち褐色に成熟し光沢があり、ほとんど無柄で斜めに下垂する。種鱗は馬蹄形状、基部は楔形で先端はまるい。苞鱗は小さく先端とがる。種子は黒褐色でヒメバラモミより大きく長さ 3~5 mm、幅 2~3 mm、翼も長さ 10~12 mm あり、ヒメバラモミより長い。5月開花し、10月ごろ球果が成熟する。

この植物は中井猛之進博士がヒメバラモミとは違う別種としてアズサバラモミの和名と *Picea senanensis* NAKAI の学名を与えられたといわれるが、未発表に終わっている。わたくしは精細な実物検討の結果、別種ではなくヒメバラモミの変種と認め、別記のような学名を与えたものである。Type-tree は長野県南佐久郡梓山にある。南アルプス仙丈岳山麓戸台などにもある(拙著日本産針葉樹の分類と分布(1960), p. 55 で発表済み)。

採集者 林 彌栄

35. ホソバアスナロ (新称)

この品種は最初牧野富太郎博士が注意され、コアスナロといわれたというが精しいことはわからない。もちろん正式の発表もない。わたくしは实地調査研究の結果、上記の新しい和名と学名を与えた。本品種は鱗葉がいちじるしく細く、一見して区別がつく。特に生木は母変種ヒノキアスナロとは全く違って見える。球果はヒノキアスナロ型ではあるが、形小さく鱗片にいくぶん突起がある。青森市付近の内真部、眺望山などにまれに自生がある(拙著日本産針葉樹の分類と分布(1960), p. 55 で発表済み)。

採集者 林 彌栄

36. クリハダヒノキ

常緑針葉高木、樹皮白く縦に割れ目を生じ、全くクリのような肌をしている。樹皮のほか葉、球果などの形態はヒノキとほとんど変わらない。

産地 東京都八王子市恩方駒木野、ヒノキ植栽林の中にまれにある。

採集発見者 長谷川孝三

基本種ヒノキの樹皮のように、いわゆるヒ肌をなさず、樹皮白く外観がちようどクリの肌そつくりのもので、樹皮以外の変化は認められない。最初元林業試験場長農学博士長谷川孝三氏が、当時帝室林野局林業試験場付属小仏事業区区劃班 2 イの大正 4 年度植栽のスギ、ヒノキ林中で発見され和名をクリハダヒノキと命名されたもので、「御料林」55 号(昭和 7 年 12 月)の口絵に写真と簡単な説明が記されている。もとはこれ以外のところにも数本あつたということである。

37. アツカワサワラ (新称)

常緑針葉高木、高さ 13 m、胸高直径 18 cm ある。このアツカワサワラはサワラより樹皮が厚くなり、海綿質でフワフワした軟らかい感じがし、縦に長い溝を生ずる。枝葉、球果などの形態はサワラとほとんど違わない。

産地 東京都八王子市元八王子町

採集発見者 林 彌栄

基本種サワラとの著しい相違は樹皮厚く海綿質でフワフワして軟らかく、縦に長い溝を生ずることである。この樹皮の状態は、ちようど北米西部の海岸山脈に自生するセコイヤ・センペルビレンス (*Sequoia sempervirens* ENDL.) の樹皮によく類似している。この木はもとサイノカミ国有林、現在八王子市、市有林内のヒノキ造林地中に 1 本ある。ほかに近くの山に 1~2 本あるといわれるが、わたくしは確認していない。このヒノキ林の種子は木曾地方からきたものであるという。木曾地方にも、こんな樹皮をしたサワラがあるかもしれないと思う。「学名もない珍木」その他の題名で、さる 5 月 3 日付の朝日、毎日、読売など各新聞の地方版にのつた木である。

38. シダレイヌシデ (新称)

落葉高木、枝は下垂する。葉は有柄互生、卵形、楕円形あるいは長楕円形、長さ 3.5~8 cm、幅 2.5~3.5 cm、側脈 9~15 対、若葉および柄には毛が多いが、成葉では表面の主脈および裏面に伏毛が残存する。

産地 東京都下北多摩郡国分寺町に稀産する。

採集者 林 彌栄

基本種とのおもなる相違は枝が著しく下垂することである。

39. オクタマコアジサイ (新称)

落葉の小低木、枝は幼時紫色のち褐紫色となる。葉は有柄対生、倒卵形、卵形あるいは狭卵形、葉質やや厚く小形で長さ 2.5~6.5 cm、幅 1~3 cm、鋸歯は浅く網脈の数が少ない。葉柄および主脈の一部、花軸は紫色、葉の表面の脈上、葉柄、葉裏、花軸などに白色の伏毛を生ずる。おしべ 10 本あり紫色、花弁は 5 枚で黄白色、基部は濃紫色、葯は濃黄色、花糸は濃紫色、花柱は 3~(4) 深裂し、そのおのおのの長さ 1~1.5 mm、柱頭は帯緑黄色で発達し肥厚する。花の香が弱い。

産地 東京都西多摩郡奥多摩町川乗山に稀産する。

採集者 林 彌栄

昭和 28 年、川乗山で発見し、葉形その他がコアジサイと違っているので一部を根掘りしてきて浅川実験林に植栽しておいたのが今年開花したものである。

原種コアジサイとのおもなる相違点は、葉の質厚く、細長く小形で、鋸歯が浅く網脈の数が少ないこと、葉柄、葉の表裏の毛が伏毛であること、花卉の基部が濃紫色であること、葯が濃黄色で目だつこと、花柱は深裂し、柱頭がよく発達し突起をなしていること、花の香の弱いことなどである。当初コアジサイとガクウツギかコガクウツギかどちらかの交配種と考え、種々検討したがそのちようこうほとんどなく結局コアジサイの変種と認めた。和名オクタマコアジサイは奥多摩産のコアジサイの意味である。アマギコアジサイ (*H. amagiana* MAKINO) とも違つたものである。

40. キヨスミサワアジサイ (新称)

落葉低木、葉は有柄対生、楕円形、長楕円形あるいは卵形、先端尾状鋭尖頭、辺縁に著しい鋸歯があり、質薄く光沢がない。若葉は緑褐色を帯ぶ。葉上下面ともに有毛、花柄に白毛が密生する。不登花の萼片は 3~5 個、大形、花卉状をなし、形丸く全辺あるいはまれに波状鋸歯縁をなし、弁に脈 7~8 個あり、その点サワアジサイよりガクアジサイようである。色は白色、縁のみが同じ幅を保つて紅色にくまどる。弁全体が白かつたり、あるいは紅色をなすことは全くない。つぼみの先端だけが紅色である。

産地 千葉県君津郡上総町、清澄山に稀産する。

採集者 林 彌栄

全部の不登花の弁片が幅広く 7~8 個の脈を生じ、色は白色で縁のみが一定の幅にあざやかな紅色でくまどり、非常に美しく、園芸的価値がある。

41. オオヤママルバウツギ (新称)

落葉低木、葉は有柄、対生、長楕円形あるいは披針形、鋭尖頭、楔底、牙齒状の細鋸歯縁、長さ 2.8~8.5 cm、幅 1~3 cm、葉の表裏に星状毛密生し、立毛はほとんど生じない。葉裏脈上には有柄の星状毛を生ずる。両面粗渋で紙質、葉脈は上面に凹む。円錐花序は頂生、やや多数花、星毛密生、萼には星毛および直立毛密布する。花卉 5 個長さ約 5 mm、花柱 3 本 (まれに 2 本)、花糸には歯がない。蒴果は径約 2.5~3 mm で小さい。

産地 神奈川県中郡伊勢原町大山 (タイプ・ローカリティ)、および八王子市高尾山に稀産する。

採集者 林 彌栄

葉は基本種ツクシウツギにやや似るがそれより葉質が薄い。花その他の形質はマルバウツギにやや似ている。和名のオオヤマはタイプ・ローカリティの大山をとつたものである。

42. ビロウドコクサギ (新称)

落葉低木、1 年生枝および 2 年生枝に毛多し。葉は有柄、互生、倒卵円形、葉状卵形あるいは楕円形、長さ 2.5~11 cm、幅 1.5~5 cm、急鋭頭、鈍端、全縁、成葉の表面脈上に白毛多く生じ、裏面全体にビロウドよりの白毛を密生する。葉柄にも白毛を生ずる。

産地 神奈川県足柄上郡山北町世附に点生する。

採集者 林 彌栄

基本種とのおもなる相違点は1~2年生枝に毛の多いこと、成葉の葉柄と表面脈上に白毛多く生じ、裏面全体にビロウドよりの白毛を密生することなどである。

43. タンザワツリバナ (新称)

落葉低木、葉は有柄対生、倒卵形あるいは倒卵状楕円形、長さ1.5~5.0 cm、幅0.5~1.8 cm、小形、鋭尖頭、楔形、細鋸齒縁、葉面に光沢なく、質薄し。花梗細く繖状に分岐し、2~5花を下垂する。花梗は葉と同長またはやや長い。花は白紫色、小形、花弁4~5個、倒卵形で内旋する。萼は比較的大形、果は球形、小形で径5~7 mm、平滑、5殻片に開裂し、種子もまた小形である。形態はかなり遺伝するようである。

産地 神奈川県丹沢山(タイプ・ローカルティ)などに点生する。また都下の高尾山にもまれにある。

採集者 林 彌栄

基本種に比し、葉著しく小形で、網脈顕著でなく、葉質がうすい。概形はコマユミのようである。花梗短く、花の数少なく、花弁の形状が異なる。果実、種子ともに著しく小形、ニツコウマユミ form. *nipponicum* (MAXIM.) HARA にやや似るが、葉形、花色、花弁の形状などにちがひがある。和名コマユミツリバナはコマユミの葉に似たツリバナの意味である。

Notes on Japanese Trees and Shrubs (4)

Yasaka HAYASHI

31. *Abies homolepis* SIEB. et ZUCC.

form. *fujisanensis* HAYASHI form. nov.

Arbor aculeato-sempervirens, strobilus cylindricus 10~12 cm longus 3~5 cm latus, squama lunulata 1.2~1.8 cm longa, 2.5~2.9 cm lata, bractea exserta, obovato-cuneata serratodentata 1~1.8 cm longa.

Nom. Jap. *Tobidashi-urajiomomi* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Kai; Mt. Fuji

(Toshirō KOZIMA, October 15, 1959, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

32. *Picea shirasawae* HAYASHI nom. nov.

Picea bicolor MAYR var. *acicularis* SHIRASAWA et KOYAMA in Bot. Mag. Tokyo XXVIII. 129, pl. 11, f. 9~17 (1913)

The bark of the trunk dark grey, thin, scaly fissured; branchlets reddish brown with brown glandular hair; pulvinus strongly elevated; winter buds brown, conical, acute at the apex, swollen at the base; leaves long, hard and coarse; leaves bearing cones especially hard and coarse, often pruinose; endodermal cells many, in a cross section of a leaf as many as 23~25; cones cylindrical, 8~12 cm long, 2.5~4 cm wide, obtuse at the apex, greenish brown at first, and becoming brown when maturing, shining; cone-scales horseshoe shaped, slightly

rounded at the apex with minute serration; seeds 3~3.5 mm long, 2~2.5 mm wide; wings 8~9 mm long; verticillate leaves of saplings with serration on margin.

33. *Picea jezoensis* CARR. var. *hondoensis* REHD.

form. *ozeensis* HAYASHI, form. nov.

Cortex cineraceus, grossius lepidotus.

Nom. Jap. *Oze-tôhi* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Iwashiro; Oze

(Yasaka HAYASHI, October 3, 1955, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

34. *Picea maximowiczii* REGEL

var. *senanensis* HAYASHI var. nov.

Picea senanensis NAKAI mss.

Folia linearia acuminata 12~18 mm longa, strobili oblongo-cylindrici 7~9 cm longi 2.2~3.2 cm lati, bractea acuta, semina 3~5 mm longa, 2~3 mm lata, ala 10~12 mm longa.

Nom. Jap. *Azusa-baramomi*

Hab. in Hondo. Prov. Shinano: Azusayama

(Yasaka HAYASHI, October 5, 1954, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

35. *Thujopsis dolabrata* SIEB. et ZUCC.

var. *hondai* MAKINO

form. *uchimappeana* HAYASHI form. nov.

Folia tenuia, brevia, strobilus parvus, squama apice abrupte cuspidata.

Nom. Jap. *Hosoba-asunaro* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Mutsu; Mt. Chôbô

(Yasaka HAYASHI, Sept. 17, 1947, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

36. *Chamaecyparis obtusa* (SIEB. et ZUCC.)

SIEB. et ZUCC. ap. ENDL.

form. *hasegawana* HAYASHI form. nov.

Arbor sempervirens, cortex alba, cum fassis longis ut in *Castanea crenata*.

Nom. Jap. *Kurihada-hinoki*

Hab. in Hondo. Prov. Musashi; Ongata

37. *Chamaecyparis pisifera* (SIEB. et ZUCC.)

SIEB. et ZUCC. ap. ENDL.

form. *crassa* HAYASHI form. nov.

Arbor sempervirens, cortex spongioso-incrassata, fassis elongatis insignis.

Nom. Jap. *Atsukawa-sawara* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Musashi; Hachiôji

38. *Carpinus tschonoskii* MAXIM.

form. *pendula* HAYASHI form. nov.

Ramus pendulus.

Nom. Jap. *Shidare-inushide* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Musashi; Kokubunji

(Yasaka HAYASHI, May 10, 1958, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

39. *Hydrangea hirta* (THUNB.) SIEB. et ZUCC.

var. *okutamana* HAYASHI var. nov.

Folia opposita petiolata obovata, ovulata vel oblongo-obovata, crassa breviter serrata, 2.5~6.5 cm longa 1~3 cm lata. foliorum pagina subtus petiolus et inflorescentiae rachis pilis appressis albidis dense obsita, petala 5 chrysoleuca, basi ostrina, stamina 10 inaequalia, filamentis ostrinis, antheris flavis, styli 3~(4) tripartiti 1~1.5 mm longi, stigma viridiflavum incrassatum.

Nom. Jap. *Okutama-koajisai*

Hab. in Hondo. Prov. Musashi; Mt. Kawanori, Cult. Asakawa

(Yasaka HAYASHI, June 10, 1960, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

40. *Hydrangea macrophylla* (THUNB.) SERINGE

var. *acuminata* (SIEB. et ZUCC.) MAKINO

form. *pulchella* HAYASHI form. nov.

Folia opposita petiolata elliptica oblonga vel rotundata caudato-acuminata, grosse-serrata, subtus hirsuta, pedunculus albo-pilosus. Floris sterilis calyx albus integer, limbi rubri.

Nom. Jap. *Kiyosumi-sawaajisai* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Awa; Mt. Kiyosumi

(Yasaka HAYASHI, June 25, 1960, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

41. *Deutzia sieboldiana* MAXIM.

var. *dippeliana* C. K. SCHN.

form. *longifolia* HAYASHI form. nov.

Folia opposita petiolata, acuminata basi cuneata, dentato-serrulata, oblonga vel lanceolata 2.5~8.5 cm lata 1~3 cm lata, utrinque stellato-pilosa. Flores albi, 5-petali 5 mm longi, styli 3 (2), capsula 2.5~3.0 mm longa.

Nom. Jap. *Ôyama-marubautsugi* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Sagami; Mt. Ôyama

(Yasaka HAYASHI, June 5, 1958, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

42. *Orixa japonica* THUNB.

form. *velutina* HAYASHI form. nov.

Folia alterna petiolata, obovata, rhombico-ovata vel elliptica, integra, 2.5~11 cm longa, 1.5~5.0 cm lata, supra hirsuta et in nervis albo-pilosa, subtus dense albo-velutina.

Nom. Jap. *Birôdo-kokusagi* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Sagami; Mt. Yozuku

(Yasaka HAYASHI, Sep. 25, 1956, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

43. *Euonymus oxyphyllus* MIQ.

var. *microcarpus* HAYASHI var. nov.

Folia opposita petiolata obovata vel obovato-oblonga, 1.5~5.0 cm longa, 0.5~1.8 cm lata, parva, acuminata, basi cuneata, serrulata. Flores albo-ostriini parvi, petala 4~5, involuta obovoidea, calycis dentes majusculi, fructus laevis globosus 5~7 mm diam., 5-valvus. Semina exigua.

Nom. Jap. *Tanzawa-tsuribana* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Sagami; Mt. Tanzawa

(Yasaka HAYASHI, June, 10, 1958, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

付 録 (草本類)

3. エダウチクサアジサイ (新称)

クサアジサイの草体が7~8に分岐し、そのおのおのに普通の葉を生じ花をつけた1品種で、群馬県勢多郡東村にある東京農工大学草木演習林に小群落をなしていた。筆者が発見採集したものである。

4. シロバナオカタツナミソウ (新称)

オカタツナミソウの白花品で、上唇の一部のみがわずかに紫色を帯んだものである。都下八王子市長房町にある農林省林業試験場浅川実験林内で、樹木研究室員小林義雄技官が発見採集したもので、個体数は少ない。学名は同技官と筆者との協同名で発表する。

5. バライロキヌタソウ (新称)

キヌタソウのバラ色の花を開く1品種で、神奈川県丹沢山塊の大室山に自生し、1カ所に小群落をなしていた。筆者が発見採集したものである。

6. ヒレノブキ (新称)

ノブキの葉には長柄があり、それに普通狭翼があるが、この品種は広い翼を生じ、それが羽状に不整深裂し、長いヒレ状をなしたものである。筆者が高尾山で最初発見採集し認めたものであるが、他の場所にも見られ、多く群生している。羽状深裂の度は個体により変化は多いが、狭翼のみを生ずるものとはすぐ区別がつく。

7. モモイロタヤマギク (新称)

タヤマギクの舌状花が最初から終わりまで桃色を呈する1品種で、神奈川県丹沢山に産する。筆者が発見採集したもので小群落をなしていた。

8. マルバノカシワバハグマ (新称)

基本種カシワバハグマに比し葉が丸く、やや円形または卵円形を呈し、牙齒または不整欠刻が非常に浅く、両面にほとんど毛なく、かつ縁毛を生じない1品種で、花の形態にはたいした相違は認められない。筆者が高尾山で発見採集したものであるが一少部分に小群落をなし、個体数は少なかった。

9. ホソバノミミガタテンナンショウ (新称)

ミミガタテンナンショウの葉が著しく細長く、狭披針形ないし長楕円状披針形をなすもので、仏焰苞は濃赤紫色で縦に白い線があり、筒部は長く、苞片は卵形で鋭尖、初めやや立つがのち前屈し、基本種より幅が狭い。筆者が高尾山で発見採集したものであるが、稀産のものである。増補版 牧野 日本植物図鑑 (1935) p. 1246, 第 3727 図は本品種にやや似た図である。この型はミミガタテンナンショウとしては異型に属するものでホソバノミミガタテンナンショウ型のものである。また山では葉や仏焰苞の幅が広く大きい型も見られる。

10. エダウチミゾシダ (新称)

ミゾシダの葉身が2~4岐した1品種で、突然変異でできたものと思われる。筆者が高尾山で発見採集したもので、ただ1株しかなかった。

11. ハガワリコタニワタリ (新称)

これは葉身が2~4深裂したり、あるいは十文字形をなし縁辺が波状をなすなど1株で毎年違った葉型の出るコタニワタリの畸形的1品種である。数年前栃木県塩谷郡栗山村鬼怒沼山の山麓で筆者が発見採集したもので、形が非常に珍しいので根を掘って持ち帰り植栽し、現在も生きており、年々珍しい葉を出している。

12. ムラサキギンバイソウ (新称)

ギンバイソウの花と不登花が、ともに紫堇色をしたものである。1960年8月4日、静岡県磐田郡水窪町白倉山国有林で筆者の発見したものである。一箇所に小群落をなしていた。

本研究に直接種々懇篤なる教導を賜わった国立科学博物館図書課長理学博士大井次三郎氏、同館奥山春季氏などに深甚なる謝意を表す。

Appendix (Herbaceous plants)

3. *Cardiandra alternifolia* SIEB. et ZUCC.

form. *ramosa* HAYASHI form. nov.

Caulis 7~8-ramosus.

Nom. Jap. *Edauchi-kusajisai* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Kōzuke; Kusaki

(Yasaka HAYASHI, Aug. 6, 1958, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

4. *Scutellaria brachyspica* NAKAI et HARA

form. *albiflora* HAYASHI et Y. KOBAYASHI form. nov.

Flores albi.

Nom. Jap. *Shirobana-okatatsunamisō* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Musashi; Asakawa

(Yoshio KOBAYASHI, May 26, 1960, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

5. *Galium kinuta* NAKAI et HARA

form. *roseum* HAYASHI form. nov.

Flores rosei.

Nom. Jap. *Barairo-kinutasō* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Sagami; Mt. Omuro

(Yasaka HAYASHI, July 18, 1956, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

6. *Adenocaulon himalaicum* EDGEW.

form. *uropterum* HAYASHI form. nov.

Folia renitormia vel deltoideo-reniformia, 5~14 cm longa, 10~23 cm lata, petioli 10~22 cm longi, conspicue alati, ala margine inaequaliter serrata.

Nom. Jap. *Hire-nobuki* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Musashi; Mt. Takao

(Yasaka HAYASHI, Sep. 30, 1958, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

7. *Aster dimorphophyllus* FRANCH. et SAVAT.

form. *roseus* HAYASHI form. nov.

Flores rosei.

Nom. Jap. *Momoiro-tateyamagiku* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Sagami; Mt. Tanzawa

(Yasaka HAYASHI, Aug. 20, 1957, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

8. *Pertya robustum* (MAXIM.) BEAUVERD.

form. *rotundatum* HAYASHI form. nov.

Folia subrotunda vel ovata, 4.5~7.0 cm longa, 3.0~5.5 cm lata.

Nom. Jap. *Maruba-no-kashiwabahaguma* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Musashi; Mt. Takao

(Yasaka HAYASHI, Sep. 30, 1958, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

9. *Arisaema limbatum* NAKAI et MAEKAWA

form. *angustifolium* HAYASHI form. nov.

Foliola lineari-lanceolata 4~15 cm longa, 0.4~2.5 cm lata. Spathae tubus in colore. Dahlia purple hyalino vel albo-striatus 4~6 cm, longus, ore eximie auriculato-extensus, limbus ovato-

acuminatus primo erectiusculus demum inflexus.

Nom. Jap. *Hosoba-no-mimigatatenanshō* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Musashi; Mt. Takao

(Yasaka HAYASHI, Apr. 23, 1958, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

10. *Leptogramma mollissima* (FISCH.) CHING.

form. *takaoyamensis* HAYASHI form. nov.

Frōns dichotome 2~4-divisa, divisionibus ovatolanceolatis.

Nom. Jap. *Edauchi-mizoshida* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Musashi; Mt. Takao

(Yasaka HAYASHI, May 30, 1960, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

11. *Phyllitis scolopendrium* (LINN.) NEWM.

form. *variifolium* HAYASHI form. nov.

Folia varie divisa, profunde 2~4-partita, interdum cruciatim divisa.

Nom. Jap. *Hagawari-kotaniwatari* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Shimotsuke; Mt. Kinunuma

(Yasaka HAYASHI, Sep. 3, 1955, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

12. *Deinante bifida* MAXIM.

form. *violacea* HAYASHI form. nov.

Flores fertiles et steriles violacei.

Nom. Jap. *Murasaki-ginbaisō* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Tōtōmi; Mt. Shirakura (Yasaka HAYASHI, Aug. 4. 1960. typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

付 記

シシンデン (紫宸殿) の雄花初めて咲く

シシンデンは学名を *Shishindenia ericoides* MAKINO (Zissai-engei, Vol. 24, p. 1305. with fig., 1938)
= *Chamaecyparis obtusa* SIEB. et ZUCC. var. *ericoides* BOEHMER
= *Chamaecyparis obtusa* forma *Sanderi* REHD.

といい、一名ホウオウヒバともいう。ヒノキ科の植物である。

増補牧野日本植物図鑑には「極めて稀に栽培を見る常緑の針葉灌木、性質虚弱で育ちにくく、高さ 50 cm 以上のものを著者はまだ見たことがない。また花も果実も生じた事実を知らないが、葉の形態の特殊性から 1938 年に独立の属名を与えたものである。茎はやせ少数の枝を打つ。葉は対生、長さ 1 cm 程の線状長楕円形で無柄、鈍頭、革質で茎に直角につき、葉脚は若干茎面に流れる。暗緑色、中脈が軽く表に凹み、裏に凸起、ここに横断面で一樹脂道あり、気孔条なきは特異である。概形ヒノキの初生葉に似た点がある。和名は共に園芸名」とある。とにかくごくまれにしか見られない珍しい針葉樹である。

わたくしはこの樹木を 5 本、偶然の機会に、デパートの盆栽売場で手に入れ、大切に育てながら、この

樹木が何木から分化されたものか、祖先がえりの状態はないかなどと注意深く見まもっていた。まず最初のころみとして、この植物に類似していると思われるヒノキ、サワラ、クロベ（ネズコ）、アスナロなどの種子をまき、そのおのおのの樹種の初生葉とシンデンの葉を比較検討してみた。その結果上記 5 種の樹種のうちクロベにいちばん類似しているように思われた。

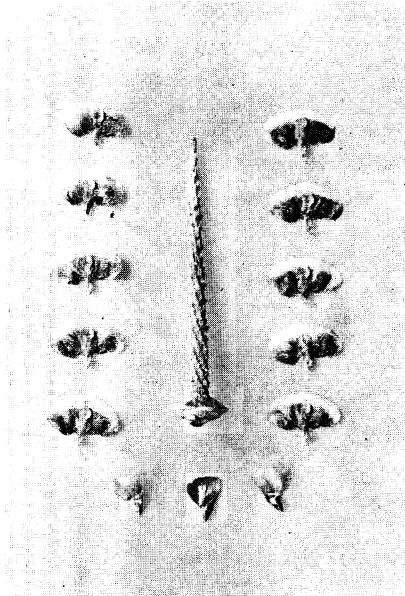
その後神戸市立森林植物園からシンデンのまれに見るほどの老木(半枯の)を数本もらつてきたので、樹肌の概様、樹皮、材、香などをヒノキ、サワラ、クロベ、コノテガシワ、アスナロなどと比較してみた。それによると樹肌の概様などはクロベ、コノテガシワ、アスナロなどに近く、ヒノキやサワラとは異なつてることがわかつた。若葉、若枝などの香はコノテガシワに最も類似しているようである。材については専門家に見てもらつたがはつきりした結論が得られなかつた。

昭和 35 年 1 月 20 日浅川実験林の硝子室に鉢植えされていたシンデン 1 本に雄花が十数個開花した。これは林業試験場造林部造林科長の加藤善忠技官と同部育種第二研究室の福原樞勝技官が協同で研究している「ジベレリンによる針葉樹の開花促進」の研究材料の一つとしてこのシンデンを提供したもので、ジベレリンの散布によりこの開花困難な珍木がみごとに開花したものである。福原技官の話によると、これは前年の 1959 年 7 月 28 日、濃度 100 ppm のものを散布したという。この前、1958 年には 6 月 18 日に濃度 300 ppm のものを散布したが開花しなかつたとのことである。とにかく雄花が咲いたので、これを種々なる方面から検討してみた。シンデンの雄花の形態をヒノキ、サワラ、クロベ、コノテガシワ、ニオイヒバ、アスナロなどと比較してみた結果、コノテガシワに最も類似していることがわかつた。花粉の状態は、花粉の研究学者東邦大学助教授幾瀬マサ博士に送り検討してもらつたが、ヒノキ属やクロベ属の植物と大した相違なく、このシンデンだけが他の類似植物の花粉と違つているということはないとの返答であつた。以上の諸種の点から推察してみても、今までのところシンデンはヒノキ (*Chamaecyparis*) 属よりもクロベ (*Thuja*, *Biota* を含む) 属から分化したもののように考察される。

東大の前川文夫博士はシンデンはアスナロから分化したものではないかといわれている。

しかし今後シンデンの雌花がつけば、これらの問題の結論は案外早くできるものと思われる。

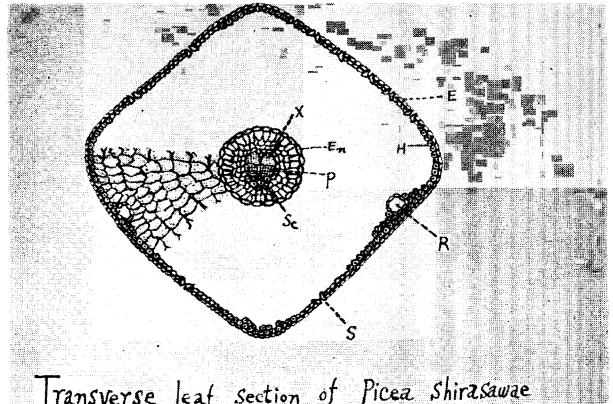
直接種々ご教示を得た造林科長加藤善忠技官、および育種第二研究室福原樞勝技官に厚く感謝する。



31. トビダシウラジロモミ
Abies homolepis SIEB. et ZUCC.
form *fujisanensis* HAYASHI

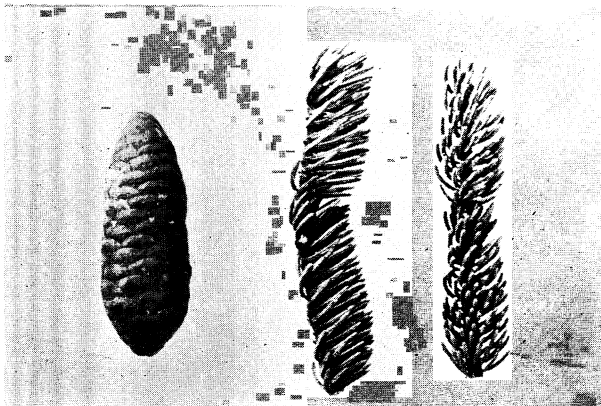


32. ヒメマツハダ
Picea shirasawae HAYASHI



32. ヒメマツハダの葉の横断面→

Transverse leaf section of *Picea shirasawae*



← 32. ヒメマツハダ
Picea shirasawae HAYASHI



← 33. オゼトウヒ林
Forest of *Picea jezoensis* CARR.
var. *hondoensis* REHD.
form. *ozeensis* HAYASHI

↓ 33. オゼトウヒ
Picea jezoensis CARR.
var. *hondoensis* REHD.
form. *ozeensis* HAYASHI

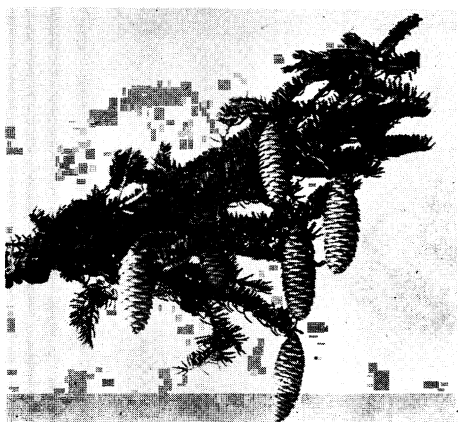


33. オゼトウヒ
Picea jezoensis CARR.
var. *hondoensis* REHD.
form. *ozeensis* HAYASHI

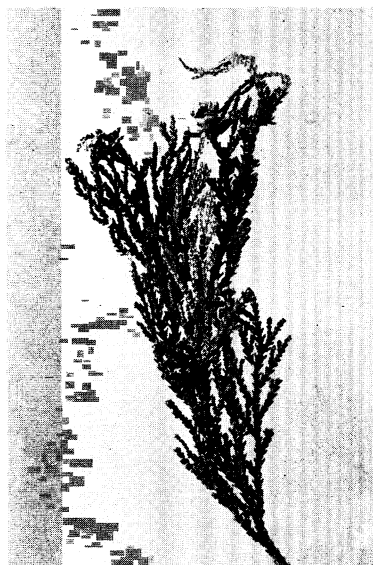


34. アズサバラモミ (原標本木)→
Picea maximowiczii REGEL
var. *senanensis* HAYASHI (Type-tree)





34. アズサバラモミ
Picea maximowiczii REGEL
var. *senanensis* HAYASHI



35. ホソバアスナロ
Thujopsis dolabrata SIEB. et ZUCC.
var. *hondai* MAKINO
form. *uchimappeana* HAYASHI



←36. クリハダヒノキ (長谷川原版)
Chamaecyparis obtusa (SIEB. et ZUCC.)
SIEB. et ZUCC. ap. ENDL.
form. *hasegawana* HAYASHI

林業試験場付属御料地小仏事業区、区画班2イ、大正4年ヒノキ、スギ植栽地のなかに樹皮白く外觀あたかもクリの肌似た珍しいヒノキがあるので、クリハダヒノキと名付けた。写真(1)、(2)は肌、樹皮以外には別段変わった点は認められぬ。(長谷川原記載文)



→
37. アツカワサワラ
Chamaecyparis pisifera (SIEB. et ZUCC.) SIEB. et ZUCC.
ap. ENDL.
form. *crassa*
HAYASHI



←
37. アツカワサワラ
Chamaecyparis pisifera (SIEB. et ZUCC.)
SIEB. et ZUCC. ap. ENDL.
form. *crassa* HAYASHI



38. シダレイヌシデ
Carpinus tschonoskii MAXIM.
form. *pendula* HAYASHI



39. オクタマコアジサイ
Hydrangea hirta (THUNB.) SIEB. et ZUCC.
var. *okutamana* HAYASHI



40. キヨスミサワアジサイ
Hydrangea macrophylla (THUNB.) SERINGE
var. *acuminata* (SIEB. et ZUCC.) MAKINO
form. *pulchella* HAYASHI



41. オオヤママルバウツギ
Deutzia sieboldiana MAXIM.
var. *dippeliana* C. K. SCHN.
form. *longifolia* HAYASHI



41. オオヤママルバウツギ
Deutzia sieboldiana MAXIM.
var. *dippeliana* C. K. SCHN.
form. *longifolia* HAYASHI



42. ビロウドコクサギ
Oriza japonica THUNB.
form. *velutina* HAYASHI



43. タンザワツリバナ
Euonymus oxyphyllus MIQ.
var. *microcarpus* HAYASHI

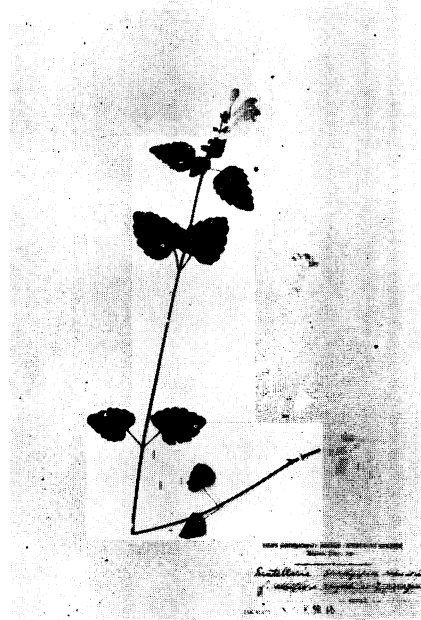


43. タンザワツリバナ
Euonymus oxyphyllus MIQ.
var. *microcarpus* HAYASHI

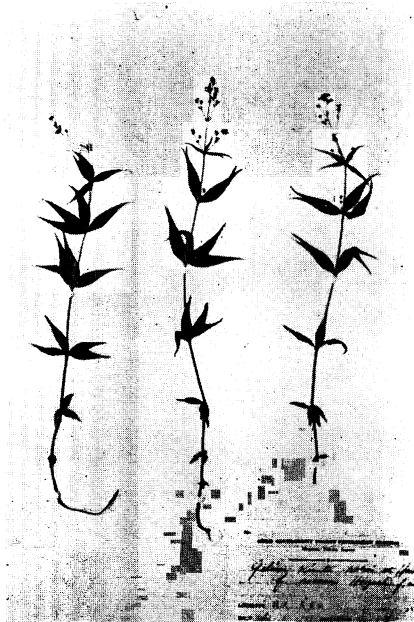
付 録 (草本類) Appendix (Herbaceous plants)



3. エダウチクサアジサイ
Cardiandra alternifolia Sieb. et Zucc.
form. *ramosa* HAYASHI



4. シロバナオカタツナミソウ
Scutellaria brachyspica NAKAI et HARA
form. *albiflora* HAYASHI et Y. KOBAYASHI



5. バイロキスタソウ
Galium kinuta NAKAI et HARA
form. *roseum* HAYASHI



6. ヒレノブキ
Adenocaulon himalaicum EDGEW.
form. *uropterum* HAYASHI



7. モモイロタテヤマギク
Aster dimorphophyllus FRANCH. et SAVAT.
form. *roseus* HAYASHI



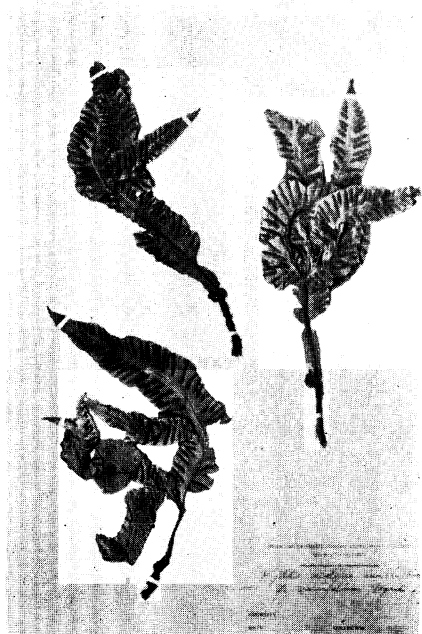
8. マルバノカシワバハグマ
Pertya robustum (MAXIM.) BEAUVERD.
form. *rotundatum* HAYASHI



9. ホソバノミミガタテンナンショウ
Arisaema limbatum NAKAI et MAEKAWA
form. *angustifolium* HAYASHI



10. エダウチミゾシダ
Leptogramma mollissima (FISCH.) CHING.
form. *takaoyamensis* HAYASHI



11. ハガワリコタニワタリ
Phyllitis scolopendrium (LINN.) NEWM.
form. *variifolium* HAYASHI



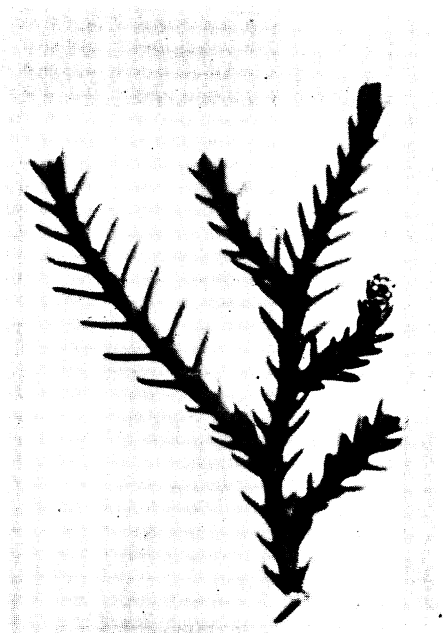
11. ハガワリコタニワタリ
Phyllitis scolopendrium (LINN.) NEWM.
form. *variifolium* HAYASHI



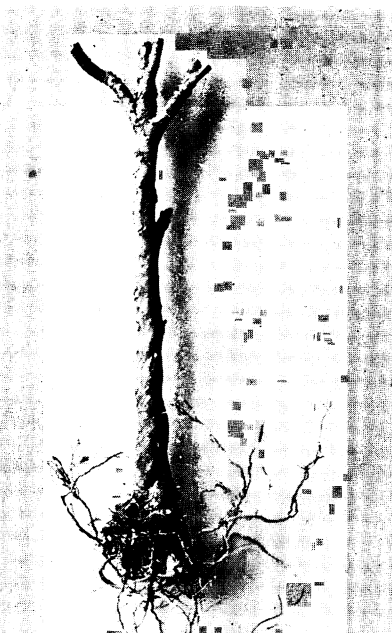
12. ムラサキギンバイソウ
Deinanthe bifida MAXIM.
form. *violacea* HAYASHI



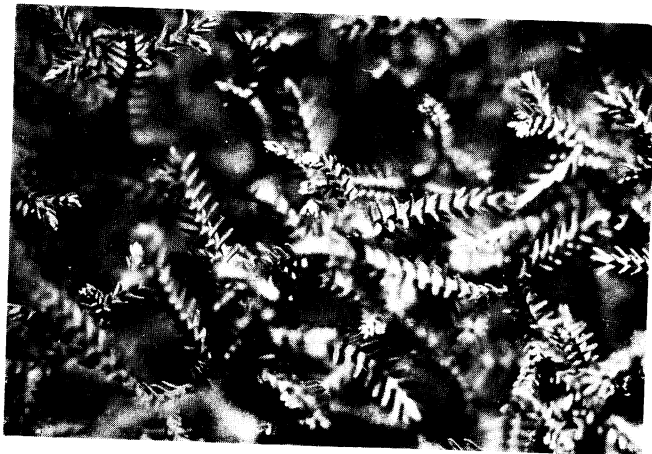
シシンデン (紫宸殿)
Shishindenia ericoides MAKINO



シシンデン (紫宸殿) の雄花
Shishindenia ericoides MAKINO



シシンデン (紫宸殿)
Shishindenia ericoides MAKINO



シシデン (紫宸殿) の雄花
Shishindenia ericoides MAKINO